

～ 真理の道・誠の道・平和の道～

東 雲



平戸市立度島小中学校

学校だより No.31

令和7年2月10日(月)

文責：校長 園田栄作

「立春」を迎えて

～ これまでの自分を振り返り、さらに磨くために！ ～

「立春」と言えば2月4日、「節分」と言えば2月3日のイメージが強いですが、今年の節分は2月2日、立春は2月3日でした。これは、地球が太陽を1周する時間が365日ピッタリではないためです。立春を2月4日のままにしておくと、日にちと地球の位置がずれていくため、今年のように調整がなされるわけです。また、ご存じのように、立春の前日が節分ですので、今年は立春も節分も共に通常より1日早く来たということになります。ただ、立春が来ましたが、先週はこの季節一番の寒さでした。肌で感じる春が来るのは、もうしばらくしてからなのですが、日の長さが少しずつ長くなっていることから、確実に春に近づいているのを感じるのではないのでしょうか。

4日(火)に、全校朝会を行いました。「立春」にちなみ、学校によっては、よくこの時期に行われる「立春式」について話をしました。立春式とは、14歳になる中学2年生で行われるお祝いの式のことです。昔、武士の社会では「元服」という大人になる儀式がありました。髪の色を変え、名前を変えて、そして責任のとり方まで教えていたそうです。なぜこの年頃で行われるかという、心や体も大人に近づいたということや法律の面でもこれまでとは違う扱いになることがあるからのようです。ものごとの善し悪し、判断力もついてくる時期に自分自身を見つめ、これからの生き方、人生について考えることは、とても意義があります。

節分の「節」は「ふし」とも呼びます。「ふし」がある代表的な植物に竹があります。子供たちもすぐに気づいてくれました。竹は「ふし」があるから強い風に吹かれても折れにくいそうです。節分を機に、自分の弱い心の部分を見つめ直し、心の鬼を退治することは、自分に成長できた「ふし」を刻むことになります。中学2年生のみならず、全校児童生徒にも、「節分」「立春」を自分磨きのチャンスと捉え、竹のようにたくましく育って
くれることを願っています。



中学校の授業参観・懇談会ありがとうございました ～ 部活動の地域移行についても話しました！ ～

5日(水)に、中学校において本年度最後の授業参観・懇談会を行いました。たくさんの保護者に学習の様子を見てもらったり、一緒に活動してもらったりして、1年間の学びの成長を感じていただくことができました。また、懇談会においては、今年度の振り返りや来年度の学級役員の選出の話合いをしていただきました。次年度につながるよい締めくくりとなりました。本年度の学級役員の皆様1年間のお世話ありがとうございました。



全体会においては、部活動の地域移行について、学校から話をさせていただきました。現在平戸市の中学生は700人程度います。10年後には500人程度に減ります。部活動のままでいくと、各学校別では、活動が成り立たなくなっていくと思います。地域クラブへの移行は、「少子化」においても、生徒へスポーツ活動、文化活動に親しむ機会を確保することをねらいとしています。度島に合ったよりよい組織や方法を考えていかなければなりません。次は、19日(水)にある小学校の懇談会でも話をいたします。



なわとびチャレンジ大会！

小学生は、5日(水)に「なわとびチャレンジ大会」を行いました。5・6年生が大会の方法を検討し、みんなが目標を持って取り組めるように計画してくれました。個人の部、チームの部があり、これまで練習を重ねてきました。最初はうまく跳べなかった1年生も、連続でリズムよく跳べるようになりました。体力の向上が図られただけではなく、続けて取り組むことで上達することや仲間と力を合わせることの気持ちよさを実感することができました。

